

氏名	竹 中 龍 太
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 号
学位授与の日付	平成16年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Serum Antibodies to <i>Helicobacter pylori</i> and its Heat-Shock Protein 60 Correlate with the Response of Gastric Mucosa-Associated Lymphoid Tissue Lymphoma to Eradication of <i>H. pylori</i> (ヘリコバクターピロリ除菌療法に対する胃MALTリンパ腫の 反応性と血清ヘリコバクターピロリおよび heat shock protein 60 抗体価は関連している)
論文審査委員	教授 谷本 光音 教授 槇野 博史 助教授 上岡 博

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

胃MALTリンパ腫に対する*Helicobacter pylori* (以下*H. pylori*) 除菌療法は有効とされているが、除菌療法無効のMALTリンパ腫も存在する。血清*H. pylori*抗体価を測定し、その治療効果予測因子としての有用性について検討した。除菌療法を行った胃MALTリンパ腫33例を対象とした。年齢、性別、内視鏡所見（表層型vs. 腫瘍型）、超音波内視鏡所見（m vs. sm以深）、所属リンパ節腫大の有無、血清*H. pylori*抗体価について完全寛解群（CR群）と無効群（NR群）とで比較検討した。*H. pylori*抗体価はCR群でNR群に比して有意に高値であった。他の因子では高齢者、腫瘍型がNR群に多くみられた。性別、超音波内視鏡所見、所属リンパ節腫大の有無については両群間に有意差を認めなかった。胃MALTリンパ腫に対する除菌療法有効性の予測因子として*H. pylori*抗体価が有用である可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、*H. Pylori*（ピロリ菌）陽性で除菌治療を施行した胃 MALT リンパ腫患者 33 例を対象として、除菌前後のピロリ菌に対する抗体価とヒト熱ショックタンパク 60（HSP60）抗体の変動を観察した。この結果、除菌治療後の寛解例では、除菌開始前の抗体価が有意に高い事を見いだした。このことは除菌治療開始前の液性免疫の評価によって、胃 MALT リンパ腫の治療効果が予測出来る可能性を示しており、腫瘍の抗菌剤による治療の成果に関して新たな知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。